

練馬区食育推進ネットワーク会議（第7期）活動について（案）

【練馬区健康づくり総合計画(食育を推進する環境づくり)と食育推進ネットワークの取組】

【5年後の目標】

区民が、食材や調理に関心を持つことができ、自身の健康のために食事を考えることができる状態
健康な食事や食文化が、食を通じた世代間の交流により次の世代に継承されている状態

【重点課題】

- ちゃんごはんプロジェクトの新設
- 伝統野菜を活用した食育の推進
- ねりマルシェの開催・支援
- 商店を通じた食の提案
- 健康づくり協力店事業の拡充
- 食育実践ハンドブックによる「ねりまの食育」の推進
- 食育ボランティアの活動支援

食育推進ネットワークの取組

- 第5期より食育推進ボランティアとの協働事業「ちゃんごはん」活動開始
- 「若い世代」への取組を実施(第6期)
- 第6期よりねりまの食育応援店事業開始
- 食育キャンペーンでの配付、活用
保健相談所事業での活用
- 第6期より「ちゃんごはん」の対象の拡大・子ども食堂等情報交換の場に参加

【栄養バランスのとれた食事を食べている状況】

(問)主食・主菜・副菜の3つを組み合わせて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが、「ほとんど毎日」の国民の割合は、男性54.6%、女性61.0%である。年代別にみると、男女とも若い世代(20~39歳)はその割合が低い傾向にある。練馬区総数では、主食・主菜・副菜を組み合わせて食べる割合は国と比較して男女とも低い傾向にあり、さらに若い世代は男性20歳代16.3%、女性30歳代32.7%と、それぞれ国より低い傾向にある。

練馬区の現状をふまえ、第6期での検討課題とした

【練馬区食育推進ネットワーク会議 第6期までの活動】

(第4期の活動)

区民が食育に取り組む仕組みの検討
→平成27年度～

食育推進ボランティアとの協働事業
「ちゃんごはん」の開始

※ちゃんごはん
地域の子どもたちを対象とした食事作りの体験事業。
子どもたちが大人になるまでに、健康的な食事を自分で調理できる「食の自立」ができることを目標とし、さらに地域の大人との共食の機会を通して、地域の食文化の継承を目指している。

(第5期の活動)

健康づくり協力店事業の拡充に向けた検討
住み慣れた地域でいつまでも健康で暮らせる食環境整備

- ①事業概要の検討
- ②登録証、普及啓発用物品の検討
- ③情報紙の検討

→平成29年度～(第6期)

「ねりまの食育応援店」の開始

(第6期の活動)

- (1) 食育推進ボランティア活動の拡大＝「ちゃんごはん」の対象を広げ、実施した。
- (2) 「ねりまの食育応援店」の周知や登録店舗数増加に向けた情報誌を部会で検討し、作成した。
- (3) 若い世代部会で練馬区の20～30歳代の食に関する問題点を共有し、取組を検討した。また、若い世代が集まるイベントでの食育を実施した。

(第6期までの活動を振り返って)

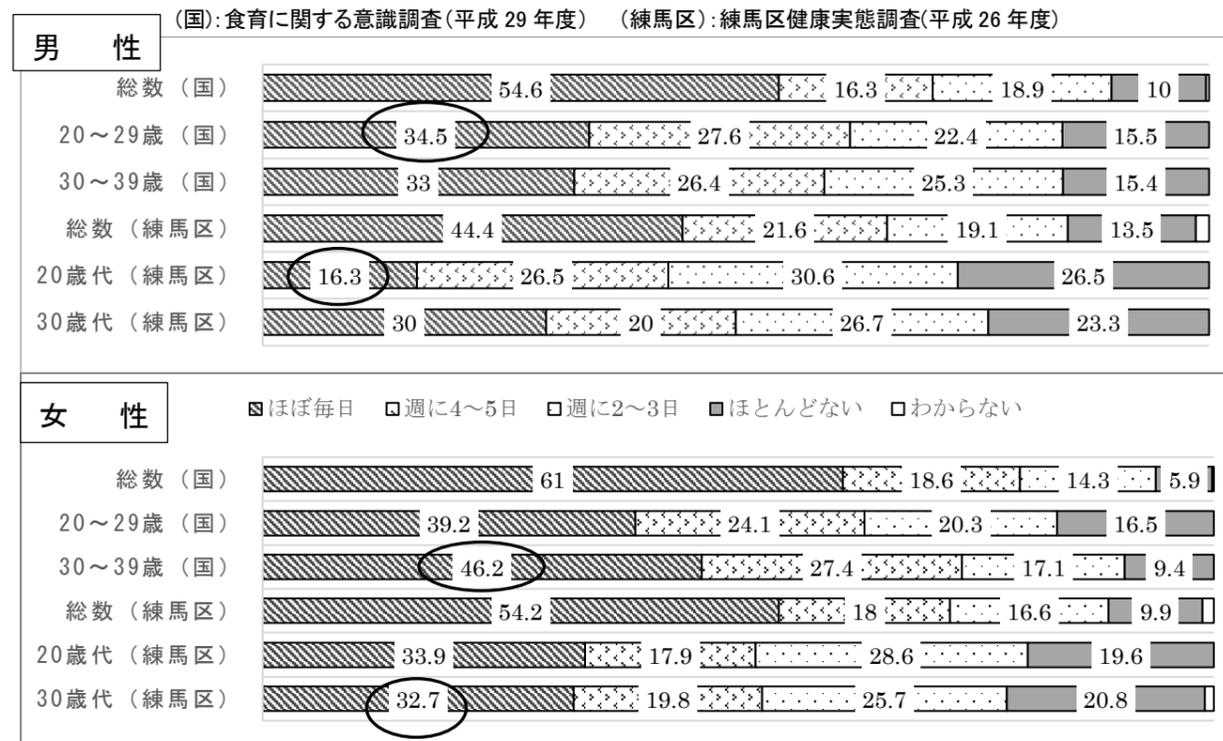
「若い世代」に対して、現在イベント等を活用するアプローチしかできていない。若い世代の食生活の状況は、平成26年度の調査から改善傾向はあるが、国の目標数字に比べると、今後さらなる取り組みを行わなければ大きな効果は期待できない。

「ねりまの食育応援店部会」では、登録店舗の食育活動などの拡大、関連部署との連携をすすめる必要がある。

第7期活動(案)6期に引き続き

- (1) 若い世代に直接アプローチするための具体的な取組の検討、実施
- (2) ねりまの食育応援店普及啓発

第6期に引き続き、「若い世代部会」「ねりまの食育応援店部会」で検討



食育に関する意識調査(平成29年度)と練馬区健康実態調査(平成26年度)より